

## 授業方法について独自に工夫していること 【人文社会学系】

毎回の授業で課題を出し、コメントシートに記入してもらっている。記入してもらったコメントシートは、次の授業の冒頭に、良かったものや悪かったものを紹介している。また、コメントシートは、学生からの質問や疑問についても記入してもらっており、同様に、次の週の冒頭に回答するようにしている。

一斉講義で話す方法が中心ではあるが、途中で活動を入れるなど、応用的な学びを深める内容としている。

- ・教育方法(内容)についての教育政策の動向および学校での実践的動向について、最新の情報を提示する。
- ・教育方法に関する理論や概念規定を提示する。
- ・概念をもとにしながら、授業記録等を分析する。
- ・実践事例の分析に基づき、自らプランを作成する。
- ・以上の全ての学習プロセスにおいて、グループでの討議→全体への発表→個人の感想という展開を組み込む。

できる限り、現場に出たときに直面する状況を想定した内容にしています。また、一部の学生になってしまいますが、卒論で必要になる内容にもなっています。

一方的な講義ではなく、学生参加型の授業を心掛けている。現場での授業の実態を交えて、教師として必要な姿勢とはどのようなものかを伝えようとした。

模擬授業→相互評価の方法を軸としながら、全員が「教材をどう理解するのがいいのか」「それをどのような発問で考えさせるのがいいのか」「発言の広がりや受け止めたらいいのか」「能動的に取り組ませるにはどうしたらいいのか」など、常に課題をもって取り組めるよう心掛けた。

### 【M1国語科教育A(学籍番号 偶数)】【S2国語科研究A I(学籍番号奇数)】

○授業開始時に2、3問、時事問題を出しています。

○交流の時間を毎時間取り入れています。また、授業終了10分前に「授業の振り返り」をする時間を設けています。授業の中で気づいたことや、他の学生から受けたアドバイスを次回どのように生かしていくのかといったことなどを考えさせています。

「わかりやすく、かつ、実践的に」がモットー。朗読も細かく指導しているし、実際どう論理的に説明するかの見本も示しているつもり。今年から、リポジトリにある拙稿も活用しはじめた。

- ① 15回の授業の中で、「多文化共生」「地域の文化財」「これからの日本のエネルギー」の3つの教材開発をグループごと学生に行わせる。
  - ② グループの中で、授業の指導者を決め、全員の前で中学3年生を念頭に置いた模擬授業を行わせる。
  - ③ テーマに応じたゲストティーチャーをお招きし、教材研究の深まりをめざす。
- \* ①、②、③を繰り返すことを通して、学習者の立場に立った授業の組み立てや、追究意欲を高める教材開発の在り方を学ぶ。
- \* 理論的な学びだけでなく、授業の方法論や生徒(学習者)理解の仕方等、実践的な面も重視している。
- \* グループによる討論をベースに模擬授業づくりを行うことで、学生の達成感を高めることができる。(AL)

①対象となる授業の目的と到達目標の明確化

- ・目的…学生に「社会的見方・考え方」のうち「社会的見方」の枠組みを作る。
- ・到達目標…小3「学校のまわりの様子」を構成する5つの要素を本学周辺地域の実態で習得し、それを元に、各々の学生の出身小学校区で探求し、レポートにまとめることができる。

②15回の構成

- ・各要素ごとに、例えば、本学周辺の地形を等高線作業と実地見学→学生の出身小学校区の等高線作業と観察といったように、習得→活用の往還を何度か展開する。

③学生を主体的に探求させるために

- ・名札を作り、発表の際に板書に付した。また、出欠確認に利用した。
- ・小さなホワイトボードを用いて、学生の考えを表出できるようにした。
- ・コメントシートは、当初、断片的な感想が述べられているものが多かったので、途中から、「この授業で気づいたこと、考えたことに表題を付けて、主語・述語を付けて書く」ように促した。
- ・学生のコメントシートには、教員のコメントを付けて次週に返却した。また、コメントの中の主な論点となるものをまとめて、「授業だより」として学生に配布した。

独自かどうかはよくわからないが、学生の考えを聞き、そこから発展できる内容で授業を構成するよう心掛けている。

2018年度本授業に関して3点の工夫を実施しました。

1. 基本を同じくしてらせん状にワークシートと対話を重視した活動:教育実習、採用試験、就活のある忙しい時期であるため、学びの方向を同じくし、スパイラルな授業展開を実施しました。前半は「読む技術」を振り返る形で進め、後半は2つのコースに合わせたワークシートを使った授業としました。
2. 4年生の進路に合わせたコースの設定:後半の授業では、小学校国語を担当する学生と中学・高校で数学を教える学生、一般職に進む学生の2コースの言語活動について考えていけるような課題設定を実施しました。
3. ラーニング・コモンズでの自学自習を基盤に、レポートの作成へ:新しく完成したラーニングコモンズを活用しました。2つのコースに分けて、本、論文、教科書を読みながらワークシートへの記入を行い、毎時間最後に対話しながら進める授業を行いました。

講義形式というより、グループごとに課題について話し合う時間を多く設けている。学生による相互評価も取り入れている。

- ・実際の教材を取り上げ、児童の立場になって学習を体験しながら、指導者としての観点を研究できるようにした。
- ・基本的なことは教授しながら、できる限りアクティブに学べるようグループ活動したり、児童役や教師役になって活動したりした。
- ・指導案作成も試みた。その際、1時間すべてを作成するのではなく、展開部分のみを作成するようワークシートを工夫した。

講義に際しては、受講生が主体的に自らの意見を発信すると共に、他の受講生と密に意見交流することができるよう、発表やグループワークの機会を(少なくとも各回平均45分以上は)設けました。とくに意見交流という点に関しては、クラス全体でのディスカッションを「哲学対話(P4C)」の手法を用いて実施した点が、本講義における工夫の一つとして挙げられます。また、必要な知識を伝達するためにやむを得ずこちらが講義するスタイルを採る際にも、「google form」というWebアンケートを利用して受講生に意見を記述させ、クラスで共有することにより、即時的かつ双方向的な学習になるよう心掛けました。

来たるべき新学習指導要領に実施に向けて、「主体的で対話的な深い学び」をキーワードに学生自身が、そのように体験的に学ぶ事ができるような実践的ワークを工夫した。

問1～6雨の回答 強く・ややそう思うが約80%であった。工夫が効果を上げたように思われる。

・独自かどうか分かりませんが、小学校の授業研究で実践されていることと同様に、提示した資料を読み取り、その内容について考えたり気が付いたりしたことを数人のグループで共有する時間を取った上でクラス全体に発表するよう促した。

・教科書の章を指定し、事前に読んでくるように指示した。それを前提として、授業が始まったら、7～10分程度の時間を取り、再度対象となる章を読み返して自分の考えをもつように促した。

・10回目以降の授業では、実際に小学校社会科で授業する場合を想定して、「学区たんけん」と「グループで指導案作り体験」に取り組んだ。

・15回目の授業では、小学校社会科におけるアクティブラーニングの具体的なあり方について全15回の授業のまとめとして講義・解説を行った。

#### ◎3631121(3年生)と4631141(4年生)の共通

模擬授業は班別を実施しました。その際に班員全員で、学習指導案の作成や授業展開の方法について検討することを求めました。事前の班員同士の話し合いは、今後の教員としての力量を左右することを徹底させました。また、実際の教育現場にいた私の経験から、教育には、授業、校務、担任業務、部活動、地域社会とのかわりなど、様々な領域があるが、教科指導は根幹をなすものであり、教科指導で生徒の信頼を得ることが大切であること、そのためには、十分な教材研究が重要であり、模擬授業はそれを披露してもらう機会であることを承知して授業に臨むことを徹底させました。

学校探検として、準備、探検、まとめ、発表というプロセスを経た探究型の学習を構成した。学生たちは、意欲的に取り組み、発表も大変興味深いものであった。

小学校国語科の概要をつかむために、児童の立場に立って演習をしたり、具体的な教材研究の仕方を取り入れたりしている。また、国語科の特質を大切にして、学生一人一人が声に出して伝えることを意識したグループ学習を行っている。

講義形式とグループワークをバランスよく取り入れるようにしている。講義形式の授業では、配布プリントに考えたこと等を記入する箇所を設け、ただ受け身に聴くだけにならないよう配慮している。

どのような基準で学業成績の結果を出したか。 【人文社会学系】

毎回授業内で課すレポート(思考力, 関心, 表現:30%)と特定のテーマに関するレポート(思考力, 関心, 表現:20%), 最終試験の得点(知識/理解:50%)の合計で評価した。

授業への参加度(取り組み方), 試験やレポートの成績などにより, 心の発達と適応, 教育相談の実際に対する理解の程度を総合的に評価した。

- ・授業感想の質、グループワークで行った課題提出の質、ペーパー試験で評価している。
- ・受講者の提出した課題、答案、感想から、各評価の典型となるものを抽出し、それらをもとに評価する

出席、小テスト、そして最終試験を総合して成績の結果を出しました。

基本的にはシラバスに示した項目と配点に基づいている。それぞれの項目の基準点を決め、授業中の学生のパフォーマンスや提出物を勘案して、基準点からプラスしたり、マイナスしたりして調整している。

以下の3点から総合的に評価した。①受講に際して当事者意識を持って能動的に参加したかどうか。②授業ごとに提出するコメントシートで個別・具体的課題に適切に取り組めているか。③学期末に提出するレポートで総括的把握ができているかどうか。

【M1国語科教育A(学籍番号 偶数)】

提出物(ミニレポート、ワークシートを含むプリント) 40%

平常点(授業の参加度、発表、課題、出席) 20%

最終レポート 40% を総合して出しています。

【S2国語科研究A I(学籍番号奇数)】

上記の内容に、書写の成績(書写担当者による)を合わせて 出しています。

試験結果に出欠状況を若干加味。五回欠でD。

① 毎回の授業における学生個々の動きを見つめる。見つめる観点は、関心や意欲、グループ活動への参加度、教材研究の深まり、模擬授業における参加度を5段階評価。

② 「社会参画意識を高める社会科の授業の在り方について」のレポート評価

\* ①、②から教材研究や模擬授業に対する実践的な能力とレポートや模擬授業の反省等の資料から理論的な能力を評価している。

・ほぼシラバスで示したとおりに評価した。また、最終レポートは、ルーブリックを示して、学生に見通しを持たせた。

・学生への評価は、S…1人、A…22人、B…28人、C…2人であった。問7(この授業の目標が達成できた)の学生の自己評価観は、強くそう思う…19人、や やそう思う…27人、どちらともいえない…4人、あまりそう思わない…1人であり、学生の自己評価観からは若干下回ったが、学生の理解や意欲、努力に沿った評価結果が出たのではないかと思う。

基本的にはレポート内容が多くの割合を占めている。が、授業中の活動も多く、それらへの取り組み方、また出席状況を勘案して成績を出している。

4月の1回目の授業時に説明したシラバスに沿って、評価をしました。  
平常点40% 毎時間提出のワークシートの合計です。多忙な4年生に応じて、授業内で書けなかった場合、後で提出したワークシートもすべて同様に評価しました。毎時間こつこつと積み上げている受講生のワークシートの内容が充実したメモになっていきました。

中間レポート10% 前半の時期に教科書に指定した新書のワークシートをもとに、読みの8つの戦略と学校教育を関連させて記述してくれました。レポートでは正解が一つあるわけではないので、受講生が経験してきた国語教育と8つの戦略を思考しながら組み合わせて記述するレベルになりました。

最終レポート50% 後半の授業5回をもとに、自分で本や教科書を読みながらメモし、そこから思考した内容をもとにレポートに整理できました。文章表現力の違いや俯瞰的な思考能力の違いが評価の差になりました。

他の学生に説明する課題担当者としての評価2回、授業中の課題に関する個人のまとめ6回、テーマを選んだレポート1回、個人発表1回、学生相互の評価などの合計点で評価した。

それぞれの領域ごとに、あらかじめシラバスで示したタイミング・配点で評価し、累積していった。

レジュメの内容(20%)、ディスカッションへの参加の積極性と各回のコメントシートの内容(30%)、中間レポート(25%)、期末レポート(25%)をもとに、総合的に評価致しました。

関心意欲態度 :出席 (10)  
知識理解 :毎時のワークシートのまとめ、振り返りの記述内容(20)  
思考表現 :5年「災害を防ぐ」単元 構想作成物 (20)  
思考判断表現 :筆記試験「見方・考え方を鍛える社会科授業の単元構想と授業実践」(50)  
このことに加え、総合的に、教師としての資質、学習に向かう態度、対話力等を加味した。

シラバスで提示した各観点の基準に従って、学生一人ひとりの観点別素点を割り出し、その合計点を学生個人の評価点として教務課に報告した。シラバスに提示した観点とは、①出席状況10%、②授業への積極性(発言など)10% ③授業の振り返りの記述内容10%④指導案の出来具合10%⑤試験の記述内容60%である。

#### ◎3631121(3年生)と4631141(4年生)の共通

毎回の授業で提出する板書例や課題を含めて、授業に積極的に参加し主体的に学んでいるかを25%、模擬授業を25%、そして、筆記試験を50%として成績を出しました。筆記試験の半分は模擬授業についての問だったので、模擬授業は全体の50%の割合になっています。なお、模擬授業については、教育現場で修正が可能なことについては大目にみるとともに、教材研究の姿勢など、教育現場に出かける前に身につけなければならないことについてはその徹底をはかりました。なお、3年生と4年生とでは、教育実習の有無の差があるので、その点は考慮しました。

#### ◎3631121(3年生)

教育実習を行っていないので、十分な教材研究、教壇での姿勢など、教員としての基礎・基本を重視しました。

#### ◎4631141(4年生)

教育実習を行っているので、学習指導案、模擬授業、ともに完成度の高いものを求めました。

授業への参加態度30%、振り返り30%、プレゼンテーション40%

授業で話した内容や教材についての要点が理解できているか、筆記試験や提出物(コメントシートを含む)等によって評価する。

コメントシート(20%)や授業内で課すシート(30%)、まとめのプリント(50%)で総合的に評価する。グループワークにおいては、グループ内でも参加度合いが異なるので、机間巡視等で公平に成績評価するよう心掛けた。

## アンケート結果を受けて改善したいところ 【人文社会学系】

アンケート結果には反映されていないが、私語が目立つ学生が多いため、その学生への注意が十分できなかったことは反省点である。意欲の高い学生の学習の機会をしっかりと保障できるようにしたい。

学生どうして授業内容を深める活動は講義全体を通して少ないため、特に評価が低かったと思われる。グループ活動や調べ学習などを取り入れて学生どうしの学び合いの機会を増やしたい。

この数年、一回の授業で扱う内容をなるべく少なくして、ゆっくり学ぶことを心がけている。今回のアンケート結果では、一回の授業内容量と難易度について、かなり肯定的な評価がなされており、この点は今後も継続的に取り組みたい。

板書した内容を写すのに時間がかかることが時々あったので、時間の節約と分かりやすさのために、配布物に記載するようにしていきたいと思います。

難易度については約7割以上がちょうどいいと答えているが、授業内容の量については「多い」「多すぎる」と答えた学生が3割前後いたので、配布する資料を精選したい。「この授業のための週あたりの学習時間」が期待したよりも少ないので、自宅学習すべき内容を明確に指示するように改善する。

受講者の主体的な活動を柱とする授業を行ったためか、アンケート結果で(表面的に)は達成感を得ていた様子が確認できた。しかし、実際のところどのような実力がついたのか、授業者としては懐疑的なところが残っている。教員主導で学修を進める事項を増やす方向で、次年度は方法を工夫したい。

### 【M1国語科教育A(学籍番号 偶数)】

4, 5, 6月は、就職活動や教育実習などで、全員が揃わない回が少なくないため、提出物の提出期日に余裕をもたせておりました。混乱が生じないように、提出期間を短くし、徹底を図りたいと思います。

### 【M1国語科教育A(学籍番号 偶数)】【S2国語科研究A I(学籍番号奇数)】

これからも分かりやすい説明を心掛け、学生が興味・関心を持ち、意欲的に取り組めるよう努めたいと思っております。

このままでよい、問1,12がよければ、問題あるまい。

①教員主導の教材研究や模擬授業の構想づくりでなく、学生主体に進めたことで、学生自身が達成感や向上感をもっていることがわかったので、今後も学生主導での模擬授業実践を進めつつ、適切な指導を行っていききたい。また学生の主体的な学びを大切にはするものの、社会科教育の普遍性については指導をしていきたい。

②学習者にとってより魅力的な教材開発の在り方を深める。これは、教育実習での授業実践や就職後の授業づくりに繋がることであると考え。

問15を見ると、週あたりの学習時間が、3時間以上と2～3時間以上が53%いる。これは、終末に近い頃のレポート作成時期の様相に影響を受けているとは思いますが、もう少し、学生の負担を少なくしたい。

※改善したい点ではないが、学生がよくがんばったことが印象に残る。

例えば、出身学区の土地利用着色と説明の時には、住宅地建設予定であろうと思われる空白の場所を実際に観察して、現在は、住宅が建っていることから住宅地の着色をし、さらに、住宅地においても、空白の場所の新しい住宅地と地形図に示される以前からある住宅地の色を塗り分けて説明した学生がいた。それを発表したりする中で触発される学生が何人も出てきたり等である。

「週当たりの学習時間」が、課題を多く出した授業では多くなっている。できればこちらから課題を出さずとも積極的に学習に取り組んでくれるように授業を仕組んでいきたい。

半期の授業の目標、流れ、評価を、繰り返し伝える努力、俯瞰的に概説することをさらに行おうと思っています。授業中に説明しているところを聴き落としてわからなくなる、欠席して聞いてないことがあるかと思ひ、なるべくプリント類に書いて伝え、学びネットでもアナウンスしてきました。まだ、クラスで3分の1ぐらいが、わかりにくいと判断していることについて、どうしたらよいのか困っています。毎時間、15回の授業の流れとの関連で、その日の授業について説明もしてきました。

グループ活動を主として行ってきたが、今回はグループ間の格差が非常に大きかった。時間のなかで、教師の説明が不十分になってしまい、学生が理解できないことが多かったのだと思う。状況に応じて、グループ活動を見直し、教師が丁寧に説明する時間を設けていこうと思う。各課題に対して、なぜ必要なのかについても十分に説明し、学生の意欲を高めたいと思う。

1年生にとって、学習指導案を部分的ではあっても作成することは、かなり難易度は高かった。もう少し時間をかけて、学生に修正する場を設けるようにしたら、後々、その他の教科で本時案および単元全体の指導案を書かねばならない時の基礎が培えたのではないかと考える。

「社会科教育A」という同一名称の科目を、2クラス(「理科(学籍番号奇数の4年生)」を中心とした受講生のクラスと、「国語(学籍番号奇数の2年生)」を中心としたクラス)担当致しました。その内、「国語」のクラスについては、各設問に対して肯定的な回答が多く、それに比して、「理科」のクラスについては、相対的に、肯定的な回答の割合は低く止まりました。両クラスでは、受講生の関心に応じて臨機応変に内容の変更が施されたものの、しかし基本的な学習内容はシラバスに即した共通のものであったわけですが、にもかかわらず、上のように二つのクラスで相違が表れたことには、その理由の一つとして、当授業で、社会科教育に関する古典的なテキストを読み進める、という学習を一つの柱として採用していたことが考えられます。そこで、今後は、受講者の関心や能力に応じてテキストを選定すること、さらに場合によっては、テキストを購読するというスタイルそのものへの代替案を検討することを行い、「この授業をさらに学びたい」という意識を、クラス全体に広く醸成することのできる講義を目指してまいります。

問9～14までに課題を感じる。本年度は初めての講義であったので、学生の実態や特性の把握が不十分であった。学生の能力をかなり高く判断してスタートしたので、実態を理解し始めた3回目から、学生の実態・理解に寄り添いながら、シラバスを変更しつつ、対応していったつもりである。今年の経験から、授業内容の量、説明の速度、難易度について体感できたことを生かして改善していきたい。

・アクティブラーニング形式の授業をめざし、学生の積極的な発言を求めたが、毎時間ポツポツとしか発言を引き出すことができなかった。4回目の授業から読み取る資料を限定し、グループ討議の時間を長めにとったりした。また、授業内容における難しい概念には解説を加えるように配慮した。しかし、学生同士の十分な討議・話し合いには至らなかった。→グループ討議から教室全体での発表へ至るテーマを精選し、学生たちが本気で考える授業をめざしたい。

・この授業のための週当たりの学習時間が「なし」の学生が半分近くに達する事実が、自分たちの考えをもてなかった要因につながると思う。予習が必要であると学生が意識するように次時の授業テーマを示すなど授業改善にあたる工夫を行いたい。

・「学生同士で授業内容を深め合った」という認識を強くそう思う、ややそう思うが50%前後を示した。この認識の割合をさらに高めると共に、教員と学生のコミュニケーションを高める工夫を新たに考えて実践したい。

◎3631121(3年生)と4631141(4年生)の共通

(1)多くの学生が教材研究の大切さを理解していることが分かります。

(2)私自身も分かりやすい説明や話術について一層の工夫(努力)をする必要があると思います。

◎4631141(4年生)

(1)既に教育実習を行っているため、基礎・基本を習得している学生にとっては満足度が必ずしも高くない。その対策としては、教材開発(教科書を離れた教材の作成)という視点が必要であると思います。

(2)次の時間が昼休みであるので、毎回、学生に話しかけたつもりであるが、一部の学生に限られていた。昼食を一緒にするなど、学生との対話の時間を確保する工夫が必要であると思います。

問1 この授業で、新しい考え方や知識・技能が身についたという設問に対して、①強く思う②やや思うの割合が、75.7%であったことは評価して良いと考える。今後も継続して、学生が新たな知見を得られるような授業を運営していきたい。

問15 この授業のための週当たりの学習時間(課題・レポートに費やす時間も含む)という設問に対して、④1時間未満⑤なしの割合が、85.3%であった点に関しては、改善すべき点であると考えている。学生が授業の予習・復習を行えるような課題提出を工夫したい。

授業内容が、聞き取りやすい話し方や分かりやすい説明になるように、一層工夫していきたい。

アンケート結果の内、教員とのコミュにメーションに関しての評価が比較的低めであるので、授業をより活発化させるためのコミュニケーションの方法について模索していきたい。